

<b>授業科目</b>  母性看護学実習	<b>区分・教育内容</b>  専門分野Ⅱ 臨地実習		
<b>授業担当者</b>  中川 郁子 (専任教員)	<b>開講時期</b>  前期～中期	<b>単位</b>  2 単位	<b>時間数</b>  90 時間
<b>授業の目的</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠・分娩・褥婦・新生児期の心身の変化を理解し、健康を保持・増進していくために必要な知識・技術・態度を学習する。</li> <li>2. 女性生殖器における健康問題に対する理解を深める。</li> </ol> <b>授業の目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠・分娩・産褥各期の生理的变化と援助内容がわかる。</li> <li>2. 新生児の生理的变化がわかる。</li> <li>3. 女性生殖器の疾患とその看護がわかる。</li> <li>4. 対象を総合的に捉え、科学的根拠に基づいた看護を展開できる。</li> <li>5. 母性看護における役割を理解し、看護の専門性を追求できる。</li> </ol>			
<b>授業概要</b> <p>実習では、妊娠・分娩・産褥・新生児の生理的な変化を対象との関わりから実際的に学ぶ機会となる。少子化の影響で出生数が減少していることから、学生2人で1組の褥婦と新生児を受け持ち看護過程を展開する。短期間での看護展開になるため、主体的に実践することを期待したい。</p> <p>生命誕生と親になる過程における看護者の役割を認識し、生命の尊厳についての考えを深めるとともに、自己の母性・父性意識を発展させる機会としたい。また、2日間のカルテ学習から、女性生殖器疾患患者の看護も学ぶことができる。疾病の特徴や看護の特性を知る機会として欲しい。</p> <b>授業計画(進め方)</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠経過に伴う生理的变化やマタニティビクスを通し、妊娠期の看護と運動療法を学ぶ。</li> <li>2. 産婦および胎児の健康状態をアセスメントし援助を行う。</li> <li>3. 母子の看護過程を展開する。</li> <li>4. 女性生殖器疾患の病態生理・治療・看護を理解する。</li> <li>5. 看護実践・カンファレンスを通し、自己の看護観、母性・父性意識を発展させる。</li> </ol>			
<b>テキスト</b> <p>新体系 看護学全書 専門Ⅱ 母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護 メヂカルフレンド社          系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 医学書院          系統看護学講座 専門Ⅱ 女性生殖器 医学書院          立岡弓子編著 新訂版 周産期ケアマニュアル 第2版 サイオ出版</p>			
<b>評価の方法</b> <p>実習評価表に添って評価する。</p>			